



長野県県民芸術祭2015参加

第21回

長野県童謡・唱歌フェスティバル

東信大会

歌でつなごう心の絆

歌い継ごう童謡・唱歌



平成27年 **10月4日(日) 12:30** 開演 (開場 11:50)

上田市 サントミュージゼ

主催 長野県童謡・唱歌をうたう会 (公財) 信毎文化事業財団

共催 長野県 長野県教育委員会

後援 日本童謡協会 信濃教育会 長野県音楽教育学会 長野県芸術文化協会 長野県合唱連盟
長野県小・中学校長会 信濃毎日新聞社 SBC信越放送 NBS長野放送 TSBテレビ信州
NHK長野放送局 abn長野朝日放送 週刊上田新聞社 東信ジャーナル社
丸子テレビ放送kk 上田ケーブルビジョン

プロフィール

♪ 松倉 とし子 (まつくら としこ) ソプラノ

オペラ「フィガロの結婚」(スザンナ役)でデビュー後、数々のオペラの主役を演じる。作曲家中田喜直氏に「日本歌曲を歌うのに大切なものをすべて具える」と高く評価され、氏の歌曲、抒情歌、童謡の多くをレパートリーとして、2000年5月に同氏が亡くなる直前まで全国各地でコンサート活動を共にしたほか、多数のCDを製作、音楽誌上で高い評価を受けながら、サントリーホール・カザルスホールなど、多数のホールでリサイタルを継続、年間80回に及ぶ演奏活動をこなす。2001年6月に、「ウィーン楽友協会ホール」で中田喜直作品コンサートに出演。

NHKT V「金子みすゞに捧ぐ 松倉とし子音楽ファンタジー」「みんなの童謡」の歌声には、全国から大きな反響が寄せられている。

山形では「童謡の日コンサート」「スイートコンサート」「ニューイヤーディナーショー」などを企画・プロデュース・出演を継続。また自らのピアノアレンジ演奏による「歌声茶論」も好評で、札幌・愛媛・大阪・山口など全国各地からの依頼に応え、又、地元では70回を迎えている。

「第29回日本童謡賞特別賞」「NHK東北ふるさと賞」「山形県芸術文化会議賞」など受賞多数。



♪ 鹿島 武臣 (かしま たけおみ) バリトン

1958年(昭33年)早稲田大学を卒業したグリークラブ出身の4人(西脇久夫、大町正人、鹿島武臣、玉田元康、現在大町に代わり2003年より吉田秀行が加入)は作曲家・故磯部俣(いそべとし)氏より「ボニージャックス」と名づけられて、コーラスグループを結成した。

ボニージャックスのレパートリーは、世界各国の民謡、歌曲、黒人霊歌、ジャズ、ポピュラーナンバーと非常に幅広く、5,000曲以上のコーラスアレンジ楽譜を保持している。

そして常にその中心として歌い続けてきた日本歌曲、抒情歌、民謡、子どもの歌ではとりわけ高い評価を受けている。ボニージャックストーンと呼ばれ美しいハーモニーと清潔で明快な歌い方は聞く人の心をなごませ豊かにしてくれる。

2008年に結成50周年を迎え、全国各地及びアジアで各国等にてコンサート、ディナーショーを中心に、精力的に活動を続けている。



♪ 石黒 孝子 (いしぐろ たかこ) ピアノ

富山県出身。国立音楽大学ピアノ科在学中より、スタジオミュージシャンとして活動を始める。卒業後、NHK高等学校講座「音楽1」に出演。以降、「算数すいすい」「算数みつけた」「おはなしのくに」など学校放送番組を担当。

又、「レ・ミゼラブル」「ビッグ・リバー」などのミュージカルに参加する他、二期会のコレペイトールとしても活躍。クラシックのみならず、幅広いジャンルを表現できる音楽家としての評価は高い。作曲家、編曲家としても多数のCM、劇伴、ステージ作品を手がけている。

プログラム

◇開会セレモニー 主催者あいさつ

第 I 部 会員の演奏

オープニング 全員唱

「信濃の国」

浅井 洌 作詞 北村 季晴 作曲 指揮 宮原 弘子
伴奏 相澤美名子

1 青木童謡・唱歌をうたう会

シャベルでほい
汽車ポップ

サトウハチロー作詞 中田 喜直 作曲 指揮 櫻井 睦子
本居 長世 作詞 本居 長世 作曲 伴奏 宮原 弘子
八一モニカ 池田 圭一

2 童国会「ぎんの鈴」

川
こわれたすいどう
野 菊

千家 元麿 作詞 橋本 国彦 作曲 指揮 飯田 忠文
谷川俊太郎 作詞 湯山 昭 作曲 伴奏 織田 仁子
石森 延男 作詞 下総 皖一 作曲
寺嶋 陸也 編曲

3 うすだ童国会、八千穂「卯の花」童国会

メドレー「唱歌でつづる四季」

・春の風
・夏は来ぬ
・さわると秋がさびしがる
・スキー
・春が呼んでるよ

和田 徹三 作詞 広瀬 量平 作曲 指揮 阿部 紀子
佐々木信綱 作詞 小山作之助 作曲 伴奏 白田 隆子
サトウハチロー作詞 中田 喜直 作曲
時雨 音羽 作詞 平井康三郎 作曲
小林 幹治 作詞
ポーランド民謡 荒谷 俊治 編曲

4 童謡唱歌・歌うモナミ

ピーマン坊主
レオとモナ
兄 弟
ピオーネ

田沢 節子 作詞 氏家 晋也 作曲 指揮 藤澤 良彦
柏木 隆雄 作詞 古原さよ子 作曲 伴奏 佐原 玉紀
藤澤 紫朗 作詞 藤澤 紫朗 作曲
柏木 隆雄 作詞 竹内 邦光 作曲

5 下諏訪童謡・唱歌をうたう会

荒城の月
幼稚園唱歌
・水あそび
・鳩ポップ
・お正月
・花

土井 晩翠 作詞 滝 廉太郎 作曲 指揮 五味 昭人
伴奏 伊藤 瑞枝
滝 廉太郎 作詞 滝 廉太郎 作曲
東 くめ 作詞 滝 廉太郎 作曲
東 くめ 作詞 滝 廉太郎 作曲
武島 羽衣 作詞 滝 廉太郎 作曲

6 全員唱 「風」

西条 八十 訳詞 草川 信 作曲 指揮 武井 宣子
伴奏 清水 桂子

7 コールフリージア、野沢童謡と唱歌をうたう会、中込童謡・唱歌をうたう会

北風小僧の寒太郎 井出 隆夫 作詞 福田和禾子 作曲 指揮 武井 宣子
いずみのほとり 深尾須磨子 作詞 橋本 国彦 作曲 伴奏 清水 桂子

8 長野唱泉会

里の秋 斎藤 信夫 作詞 海沼 実 作曲 指揮 山浦 利明
花 武島 羽衣 作詞 滝 廉太郎 作曲 伴奏 荻原 愛子

9 長地歌合会

四季の唱歌メドレー 指揮 降幡 智敏
・朧月夜 海 紅葉 冬景色 文部省唱歌 伴奏 宮阪 清恵
旅立ちの日に 小島 登 作詞 坂本 浩美 作曲
松井 孝夫 編曲

10 松本童・唱会女声合唱団「ドルチェ」

朧月夜 高野 辰之 作詞 岡野 貞一 作曲 指揮 上島喜栄子
野 菊 石森 延男 作詞 下総 皖一 作曲 伴奏 百瀬 順子
赤とんぼ 三木 露風 作詞 山田 耕祐 作曲

11 丸子童謡・唱歌をうたう会

小さな木の実 海野 洋司 作詞 ビゼー 作曲 指揮 小井土圭子
橋本 浩一 編曲 伴奏 柳澤美菜子
花の街 江間 章子 作詞 団 伊玖磨 作曲

12 全員唱 「紅葉」

高野 辰之 作詞 岡野 貞一 作曲 指揮 小井土圭子
伴奏 柳澤美菜子

休 憩

♪ みんなで歌いましょう

風



西條 八十訳詞
草川 信作曲

一

誰が風を

見たでしよう

僕もあなたも

見やしない

けれど木の葉を

ふるわせて

風は通りぬけてゆく

二

誰が風を

見たでしよう

あなたもぼくも

見やしない

けれど樹立ちが

頭をさげて

風は通りすぎてゆく

紅葉



高野 辰之作詞
岡野 貞一作曲

一

秋の夕日に

照る山紅葉

濃いも薄いも

数ある中に

松をいろどる

楓やつたは

山のふもとの

裾模様

二

溪の流れに

散り浮く紅葉

波にゆられて

離れて寄って

赤や黄色の

色さまざまに

水の上にも

織る錦

第Ⅱ部 招待演奏

(ソプラノ)

(バリトン)

松倉とし子&鹿島武臣デュオコンサート

(ピアノ)

石黒孝子

- *虹をわたって 作詞 山上 路夫/作曲 森田 公一
- *風 訳詞 西條 八十/作曲 草川 信
- *秋の子 作詞サトウハチロー/作曲 末広 恭雄
- *まっかな秋 作詞 薩摩 忠/作曲 小林 秀雄
- *夏の思い出 作詞 江間 章子/作曲 中田 喜直
- *星とたんぽぽ 作詞 金子みすず/作曲 中田 喜直
- *雨にぬれても 作詞 H・デヴィッド/作曲 B・バカラック
- *てんとう虫のサンバ 作詞さいとう大三/作曲 馬飼野俊一
- *シクラメンのかほり 作詞 小椋 佳/作曲 小椋 佳
- *山小舎の灯 作詞 米山 正夫/作曲 米山 正夫
- *大きな古時計 作詞 保富 康午/作曲 H・ワーク
- *故郷の廃家 作詞 犬童 球溪/作曲 W・Sヘイス
- *アメリカンフィーリング 作詞 竜 真知子/作曲 小田裕一郎
- *真夜中のギター 作詞 吉岡 治/作曲 河村 利夫
- *百万本のばら 作詞 松山 善三/作曲ヴォズネンスキー

※曲目、曲順が変更になる場合がございますがご了承ください。

フィナーレ 全員唱
「ふるさと」

高野 辰之 作詞

岡野 貞一 作曲

指揮 松倉とし子
鹿島 武臣
伴奏 石黒 孝子

県歌 信濃の国

(昭和四十三年制定)

浅井 冽作詞
北村 季晴作曲

ふるさと

高野 辰之作詞
岡野 貞一作曲

一 信濃の国は十州に

境連ぬる国にして

聳ゆる山はいや高く

流るる川はいや遠し

松本伊那佐久善光寺

四つの平は肥沃の地

海こそなければ物さわに

万ず足らわぬ事ぞなき

三 木曾の谷には真木茂り

諏訪の湖には魚多し

民のかせぎも豊かにて

五穀の寒らぬ里やある

しかのみならず桑とりて

蚕飼の業の打ちひらけ

細きよすがも軽からぬ

国の命を繋ぐなり

五 旭將軍義仲も

仁科の五郎信盛も

春台太宰先生も

象山佐久間先生も

皆此国の人にして

文武の誉たぐいなく

山と聳えて世に仰ぎ

川と流れて名は尽す

二 四方に聳ゆる山々は

御嶽乗鞍駒ヶ岳

浅間は殊に活火山

いづれも国の鎮めなり

流れ淀まずゆく水は

北に犀川千曲川

南に木曾川天竜川

これまた国の固めなり

四 尋ねまほしき園原や

旅のやどりの寢覚の床

木曾の棧かけし世も

心してゆけ久米路橋

来る人多き筑摩の湯

月の名にたつ姨捨山

しるき名所と風雅士が

詩歌に詠みてぞ伝えたる

六 吾妻はやとし日本武

嘆き給いし碓氷山

穿つ隧道二十六

夢にも越ゆる汽車の道

みち一筋に学びなば

昔の人にや劣るべき

古来山河の秀でたる

国は偉人のある習い

二 いかにいます父母

つつがなしや友がき

雨に風につけても

思いいずるふるさと

三 志を果たして

いつの日にか帰らん

山は青きふるさと

水は清きふるさと